

# 平成30年度高齢者生きがづくり・生活支援活動人材育成事業 生活支援活動ステップアップ講座（移動支援担い手養成講座）第1回目

## ◆第1回

日時：10月11日（木）10：00～12：00 洗心庵・多目的ホール

テーマ：制度と仕組みから学ぼう！

内容：移動サービスとは？という基本に返り、様々な移動サービスの中から地域での移動支援の必要性についてや、支援を実施するうえで必要な制度や有償・無償の違いなどの基礎知識を学びます。

### 【スケジュール】

9:30 講座受付開始

9:50 事務連絡・日程説明

10:00 講義 「生活支援活動ステップアップ＝ここで生きたい・そこに行きたい＝」  
講師 齋藤 丈夫氏（やまがた福祉移動サービスネットワーク代表）

12:00 終了・アンケート記入・会場撤収

出席者数：受講生36名 出席率：94% 講師1名  
事務局2名 県2名

## ◆総括：

- ・やまがた福祉移動サービスネットワークの代表齋藤丈夫氏より「移動支援とは」についてお話し頂いた。山形県の生活環境データや高齢者の生活での困りごとのデータをもとに、住民による移動サービスの必要性や受講生からの要望も多かった移動サービスの制度や有償・無償の判断についてお話し頂いた。受講生は真剣に講義を聞いていた。休憩をはさんで、やまがた福祉移動サービスネットワークの方々が関わった山形市明治・大郷地区で展開されているデマンドタクシースマイルグリーン号の事例についてお話し頂き、最後に全体について質疑応答を行った。質疑では受講生の地域で移動支援を行ったことで抱えている課題や困りごとが質問として挙がっていた。
- ・今回洗心庵で講義形式にて行ったが、37名では狭さを感じたので部屋の配置を検討する。また、欠席で申し込まれていた方が急遽参加となり、机や資料が足りなくなる状況が生じた。今回はたまたま欠席者がいたため席は不足することはなかったが、今後は必要に応じて事前に確認を行う。洗心庵の駐車場に駐車許可がない受講生が駐車していたので、第2回目のときは駐車場に誘導係を設置する。

講義の様子



質疑応答の様子



平成30年度高齢者生きがづくり・生活支援活動人材育成事業  
生活支援活動ステップアップ講座（移動支援担い手養成講座）第2回目

◆第2回

日 時：10月18日（木）10：00～15：30 洗心庵・多目的ホール

テーマ：運転者としての心構えとリスクへの対応を学ぼう！

内 容：移動支援を実施するための運転者としての心構えや視点を講義や東日本大震災後被災地で活動を行う実践者の先進事例を通して学びます。

【スケジュール】

9:30 講座受付開始

9:50 事務連絡・日程説明

10:00 「運転者としての心構えについて」

講師 加藤 由紀子 氏(やまがた福祉移動サービスネットワーク理事)

12:00 休憩

13:00 「“被災地”から“ずっと暮らしていけるまち”を目指して」

事例提供 村島 弘子 氏(NPO法人移動支援RERA 代表)

14:30 「ヒヤリ・ハットから学ぶ」

事例提供 本間 博 氏(やまがた福祉移動サービスネットワーク事務局長)

15:30 終了

出席者数：受講生22名 出席率：57% 講師4名

事務局2名 県1名

◆総括：

- ・午前の部はやまがた福祉移動サービスネットワーク理事の加藤由紀子氏より、自身の移動サービスの経験や乗っている人の目線から「運転者としての心構え」についてテキストを用いてお話し頂き、安全運転のほかにもコミュニケーションを行うことが重要であるとお話し頂いた。休憩をはさんで午後からは、東日本大震災後、北海道からのボランティアから始まった、宮城県石巻で活躍するNPO法人移動支援RERAの村島弘子氏より活動紹介と移動支援の意義やリスク対応についてお話し頂いた。活動VTRで利用者の方々の言葉も聞くことができ、受講生は移動支援をより身近に感じる事ができたようであった。その後、やまがた福祉移動サービスネットワーク事務局長の本間博氏より、ヒヤリハットの事例研究冊子をもとに、日々の運転につながるお話や第3回の体験学習に係る車の死角のお話もいただいた。

午前講義の様子



午後の様子（村島氏）



午後の講義（本間氏）



質疑応答の様子



平成30年度高齢者生きがいつくり・生活支援活動人材育成事業  
生活支援活動ステップアップ講座（移動支援担い手養成講座）第3回目

◆第3回

日時：10月24日（水）13：00～17：00 山形市総合福祉センター・会議研修室1

テーマ：体験学習から学ぼう！

内容：グループで高齢者や障害者の疑似体験や車両を使って死角体験を行います。※実際の運転はいたしません。疑似体験によりサービスを受ける側と提供する側両方の視点を学びます

【スケジュール】

13:00 講義&体験学習①

「高齢者のことを学んで私たちができることを考えよう」

講師 山形市社会福祉協議会 福祉のまちづくり第一係 ボランティアセンター  
佐藤 美香 氏

15:00 講義&体験学習②

「車両を使って死角体験」

講師 やまがた福祉移動サービスネットワーク  
代表 齋藤 丈夫 氏  
事務局長 本間 博 氏

出席者数：受講生17名 出席率：44% 講師3名

事務局3名 県1名

◆総括：

・最初山形市社会福祉協議会ボランティアセンターの佐藤美香氏より高齢者の身体的特徴について講義を行い、その後疑似体験を行った。疑似体験では二人一組になり、①ヘッドホン、②ゴーグル、③両腕・両ひざサポーター、④両腕、両足の重りをつけて総合福祉センター内を歩き回った。会場にもどり軍手をした状態で新聞をめくる体験を交代で行った。その後全員から感想をいただいた。受講生からは見え方や聞こえ方が違ったことで、高齢者に話しかける時の工夫をしたいという意見やサポーターをして関節が曲がりにくくなる体験をしたことで、体を動かし鍛えることの大事さを感じた人や車の乗降の際のサポートの参考になったなどの感想があり、好評であった。

休憩をはさんで、やまがた福祉移動サービスネットワークの本間博氏より、運転時の注意点をまなんだ。車の点検が重要であることから点検における合言葉「お（オイル）・ら（ラジエーター）・ば（バッテリー）・べ（ベルト）・はい（配線）・しゃ（車輪）・わ（ワイパー）・ねん（燃料）・はん（ハンドル）・ぺ（ペダル）・とう（ランプ）・みらー（ミラー）」や日常行って欲しい車両点検の合言葉「ぶ（ブレーキ）・た（タイヤ）・とう（ランプ）・ねんりょう（燃料）」について説明頂いた。その後車体の死角に外で本間氏の車の死角をタコ糸を使い可視化し、運転席に座って頂き、体験した。また2回目でお話があった「コリジョンコース現象」についてもお話し頂いた。事故のリスクを減らすために、目だけではなく体を動かししっかり確認ことや、相手に自分の存在や行動の合図をおくこと、道路状況の把握など防衛運転（コミュニケーション運転）を心がけることが大切であることをお話しいただいた。最後にやまがた福祉移動サービスネットワーク代表の齋藤丈夫氏よりNPO法人「全国移動サービスネットワーク」が作成した「みんなで作る地域にあった移動の仕組み」という資料をいただき、質疑応答を行い終了した。



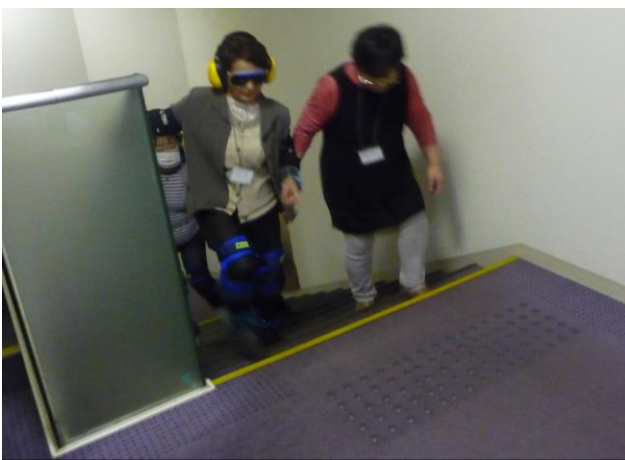
前半の様子 (佐藤氏)



体験学習の様子①



体験学習の様子②



体験後の感想



講義の様子 (本間氏)



死角体験の様子

